

プラネタリウム通信

空に散りばめられているようにしか見えなかった星から「絵」が見えてくる。

天上に散らばる恒星を、神や人物そして動物などを想像しながら線でつないだのが、星座の始まりだといわれています。夏の夜、海や山に出かけたついでに、満天の星空を見上げてみましょう。夏の星空には、さそり座、白鳥座、こと座、わし座などが見られます。

今月のテーマ：『夏の夜空に輝くさそり座』

●ギリシャ神話が由来

さそり座の由来となったのは、ギリシャ神話で勇者オリオンを刺し殺した「蠍」。オリオンも星座になったが、蠍を恐れてさそり座と一緒に空に輝くことはない。さそり座は夏、オリオン座は冬の夜空に輝く。

●特徴的なS字カーブ

さそり座は、南の空低く天の川を抱え込むようにS字にカーブをしている。
中国ではさそり座を青龍に見立て、S字にからだをくねらせた天の龍を思い描いていた。

●不気味な赤い星「アンタレス」

さそり座のもう一つの特徴が、赤い星「アンタレス」。
古代の人々は、アンタレスを不気味な闇の力を持つ星だと考えていた。

●日本では「空の釣り針」

日本の瀬戸内海地方の漁師たちは、さそり座を釣り針に見たて、「魚釣り星」「鯛釣り星」と呼んでいた。

7月のプラネタリウム

開催曜日：水～日

開催時間：9：00～／10：30～／13：30～／15：00～

定員：各回 100 名

入館料：高校生以上 300 円／中学生以下 150 円

県立学習センター（電話 052-201-XXXX）

